

## 令和2年度 第3回多摩区支え合いのまちづくり推進会議 会議録

### 会議の概要

<b>開催日時</b>	令和2年8月26日（水）13時30分から15時10分まで		
<b>開催場所</b>	多摩区役所 1F 講堂		
<b>出席者の氏名</b>	<b>委員</b>	青木義明（多摩区食生活改善推進員連絡協議会） 有北いくこ（多摩区子ども総合支援連絡協議会） 内田由美子（多摩区社会福祉協議会地域課） 大澤敏夫（菅地区社会福祉協議会） 大津努（稲田地区社会福祉協議会） 岡本次郎（多摩区老人クラブ連合会） 和秀俊（田園調布学園大学） 木澤静雄（登戸地区社会福祉協議会） 岸忠宏（多摩区医師会）	小林由紀（地域包括支援センター（しゅくがわら）） 近藤充紀（多摩区民生委員児童委員協議会） 田村弘志（多摩区社会福祉協議会） 古谷欣治（中野島地区社会福祉協議会） 山口正芳（区長推薦） 吉田輝久（多摩区町会連合会） 吉田稔（多摩区商店街連合会）
	<b>多摩区地域包括ケアシステム推進本部幹事会・多摩区支え合いのまちづくり推進会議事務局</b>	萩原圭一（多摩区長） 伊藤 公一（危機管理担当課長） 宮本紀昭（企画課長） 齊藤誠（生涯学習支援課長） 村田俊一（生田出張所長） 森田博志（高齢・障害課長） 瀧澤浩子（衛生課長） 小川幸（学校・地域連携担当課長） 渡邊光次郎（道路公園センター整備課担当課長）	加藤弘（地域みまもり支援センター所長） 塚本和秀（地域みまもり支援センター副所長） 瀧真由美（地域ケア推進課長） 高橋みゆき（地域支援課長） 倉真佐恵（地域ケア推進課企画調整係長） 青柳美登理（地域ケア推進課企画調整係） 萩原奈々恵（地域ケア推進課企画調整係）
<b>欠席委員</b>	井上亜紀子（多摩区地域自立支援協議会） 清川享二（生田地区社会福祉協議会）		
<b>議事</b>	（1）第6期多摩区地域福祉計画の素案について （2）意見交換 （3）その他		
<b>傍聴人の数</b>	なし		

<b>配付資料</b>	[配布資料] 資料1…名簿 資料2…多摩区支え合いのまちづくり推進会議運営要綱 資料3…令和2年度・第2回多摩区支え合いのまちづくり推進会議 会議録 資料4…第6期多摩区地域福祉計画目次（案） 資料5…第6期多摩区地域福祉計画（案）  冊子資料…第5期多摩区地域福祉計画
-------------	--

## 議事要旨

発言者	発言要旨
事務局（瀧課長）	次第1（開会）  （コロナ対策の連絡・会議録作成のため録音の承認）
荻原区長	次第2（あいさつ）
事務局（瀧課長）	次第3（座長選出） →和座長  ・配布資料の確認
和座長	次回に引続き座長を務めさせていただきます。それでは次第にしたがいまして議事を進行いたします。議事（1）について 事務局より説明をお願いします。
事務局（青柳）	次第4（議事）  （1）第6期多摩区地域福祉計画策定の素案について  資料4・5の説明
和座長	今の説明の中で何か素朴な疑問でもいいですし、ご意見等がございましたらお願いします。
大津委員	90 ページのコラム 10、「区の防災の取組」に送りがなの「み」を付けたほうがいいと思います。もう一つ、92 ページのタイトルに「民生委員・児童委員」とありますが、主任児童委員についても触れた方がよいと思います。
和座長	今の大津委員のご意見をぜひ参考にさせていただければと思います。他にいかがでしょうか。
吉田（輝）委員	74 ページの基本理念に「多様な主体と多世代がつながる支え合いのまち多摩区」というふうに書いてありますが、次の 75 ページの基本理念は標記が違っていると思います。  あと、75 ページですが、表右欄に掲載ページが書かれていないというのは何かあるのでしょうか。
事務局（青柳）	多摩区が作成している第1章、第2章の前の、序章の部分からページ数が継続しており、序章については市で作成中です。このためページ数が変更になる可能性がありますので、現在のところは空欄にさせていただいております。
山口委員	90 ページ、コラム「区の防災の取組」というのが急に記載があるように思います。地域福祉の中で防災をどのように位置づけているのかという説明をどこかに入れないと、なぜ突然防災についての記載があるのか分からないと思います。

発言者	発言要旨
事務局（倉）	<p>台風 19 号のような災害があったときに平常時から地域住民がつながり、顔見知りになり、お互い声を掛け合うことがとても大切だという話が出ており、それを踏まえて、区の福祉計画の中では、主に地域づくりの「つながり」という観点に着目して、防災の取組をこのコラムで取り上げようと思っています。</p> <p>また福祉計画の事業でも危機管理担当の防災出前講座ですとか、防災フェアの事業を挙げさせていただいているので、それら事業の内容にも触れていく予定です。</p>
和座長	<p>山口委員の発言の意図は、84 ページの基本目標 1 の基本方針 3 中の事業に、防災組織の運営支援が書いてあるので、この流れの中でコラムとして「防災の取組」が入ってくると違和感がないが、基本目標 2、基本方針 2 の、地域の支え合い活動推進の中に入ってくると、流れとしてスムーズじゃないという、そんなご指摘のような気がします。コラムの場所というのをちょっとご検討いただいたほうが、いいかもしれないと思います。他にいかがでしょうか。</p>
吉田（輝）委員	<p>73 ページの一番上、(3) で「分野を横断した」とありますが、この「分野を横断した」という文言をもう少し分かりやすく別の言葉にできないかなと感じました。</p>
和座長	<p>今、吉田委員に言われて、確かに堅いですね。何かいいアイデアはございますでしょうか。</p>
吉田（輝）委員	<p>分野をまたがるぐらいでどうでしょうか。</p>
和座長	<p>「またがる」は確かに分かりやすいと思います。</p>
事務局（倉）	<p>検討させていただきます。</p>
和座長	<p>他にいかがでしょうか。</p>
有北委員	<p>P78～80 にかけてですが、情報提供の拡充というところです。これをずっと読んでいきますと、「障害福祉に関する情報発信」についてのコラムしかありません。下にスペースがあるので、情報提供の拡充に関してのコラムを、もう 1 項目増やしたほうが良いと思いました。コラムで訴えかけたいことを載せていったほうが良いと思いました。</p>
和座長	<p>有北委員、何かコラムに追加するアイデアはないですか。</p>
有北委員	<p>地域包括ケアシステムについてもっと周知が必要というのがありますから、それに含まれるものということで、事業 4 番とかになってきますかね。子ども関係を入れてもいいと思いますし。でも、地域包括ケアのことをもうちょっとお知らせしたほうが良いと思います。</p>
事務局（倉）	<p>重点項目にもなっているところなので検討します。コラム 1 の所は、障害に関することはなかなか触れる機会がないので取りあげました。</p>

発言者	発言要旨
和座長	4番の地域包括ケアシステムの普及啓発、地域情報の発信というのは、とても大事なことだと思いますが、これをどのように発信するかというのが一番の課題だったりするので。
有北委員	その辺も課題ですよ。
和座長	<p>また、多摩区は子育て関係が非常に熱心ということもありますしね。</p> <p>先ほど事務局のほうからも皆さんに投げ掛けがありました、88ページをお開きいただいてよろしいでしょうか。この会議に何度も出てきている、「新しい生活様式の中で地域福祉をどう進めるか」というのは、これからとても大切な視点です。今回の第6期計画の中に組み込むことはなかなか難しいんですが、まずはこういうコラムという形で、触れていくことを考えております。</p> <p>皆さま方は地域で実践をなさっておられ、新しい生活様式でどうやって地域福祉をやっているかと、いろんなアイデアもあるでしょうし、今、困っていることもあると思います。お時間もございますので、お一人お一人にお答えいただきたいと思います。ご意見を踏まえてコラムにも出していけたらというふうに思いますので、よろしくをお願いします。</p>
有北委員	<p>緊急事態宣言が出て、子育て支援センターが閉所になり、乳幼児連れの親子さんたちは室内で遊ぶ場所がなくなりましたが、ちょうど春先で気候もいい時期だったので、皆さんは公園に出て行って遊んだり、地域をお散歩して歩いたり、外へ出る機会が非常に増えて、私は逆に、乳幼児親子の健康にとっては心身の育ちにとっても良かったんじゃないかなと思っています。</p> <p>どうしても室内で遊ぶ場所を中心にした子育て支援をしてしまうと、そこに入って行ってしまっただけで、逆に地域から親子の姿が見えなくなってしまうというのがあり、外遊びの機会もどんどん減ってしまうので、私は子育て支援センターをやりながら、歩けるようになったら公園へ行くよう促す支援をしていたのですが、この時期はそれをしなくても、みんな自分たちで公園に集まって遊んだり、散歩したりして、工夫していました。</p> <p>ただ一方で、やはり支援センターのような室内に行きたい、そこを頼りにしているお母さんたちは行く場所がなくなってしまったので、やっぱりそういう人たちにとっては、頼りにする場所がなくなってしまうというのは非常にストレスだったんだと思うんです。だから、そういう親子に対しては別の形の支援ができなかったのかなと。あのときは非常時だったので、そこまで私たちも考えられなかったんですが、例えば電話でいつでもおしゃべりを聞くよ、みたいな、そういう気楽な電話相談。いつでも愚痴をこぼしていいよみたいな電話相談とか、それから、本当につらくなったらここに飛び込んでいいよという、駆け込み寺的なことがもし対応できていたら、そういう本当につらいお母さんたちを助けられたんじゃないかなという気がしました。</p>

発言者	発言要旨
有北委員	<p>それからもう一つ、先日、高津市民館のほうで市民館、図書館の在り方を考えるフォーラムが開催されたのですが、その中で、札幌の図書・情報館のお話が冒頭に出てきて、そこは札幌の時計台のすぐそばにある、新しい方式の図書館で、個別の課題に対して対応する図書館だという話なんです。</p> <p>本の貸し出しはしないんだけど、そこに司書なりコーディネーターがいて、例えば市民活動したりとか何か課題があると、それに対してこの本が適切ですよみたいな紹介をしたり、それについてのワークショップをやったりという、一種のコミュニティー施設なんですけど、これが地域福祉じゃないのかなと思うような図書館だったんです。本来の図書館とは違うんですけど、そういう図書館の在り方というのも一つの考え方なのかもしれないと、すごく感じました。</p> <p>市民館が何をできるか。また図書館と市民館が連携をして、地域の中で個別の、個人の課題解決に対して働き掛けができるような在り方を検討しようみたいな話になったんだと言って。これは本当に地域福祉じゃないのと片方で考えながら、市民館、図書館は社会教育施設だから、そこの連携をどうやっていくかというのは一つ壁があるので、大きな課題にはなりますけど、そういう従来の機関をうまく庁内で結び付けながら、それがまた地域に入っていくって、こども文化センターや老人いこいの家とも結び付きながらやっていけたら、非常に良い流れができるんだろうなということを感じました。</p>
和座長	<p>図書館と市民館はこの建物にもありますけれども、どうでしょうか。今のアイデアというか連携の可能性とか、ご意見などはありますか。現状を含めてでもいいです。</p>
有北委員	<p>今すぐにできることはまだ難しいと思うんですけど、将来的なことになると思うんです。</p>
和座長	<p>札幌では社会教育と福祉というのはいま連携ができていく感じですか。</p>
有北委員	<p>この札幌の図書館というのは、札幌市内には40館ぐらい普通の図書館もあるそうです。その中で札幌市図書・情報館というのは札幌の駅に近く、時計台の裏のビルだそうです。そこで何か地域に対して新しいことができないかということで、新しく企画された図書館で、元々まちづくりを担当していた方がその担当職員になられて、企画して始めたそうなんです。</p> <p>ですから、黙って本を読むスペースよりはみんなが集まっておしゃべりしたり、あるいはカフェスペースなども併設していて、普通の図書館とは違う、本当に生活に役立つ資料を集めた図書館という形らしいです。だから、札幌の中でも非常に特殊な図書館の例なんですけれども、これからの図書館の在り方として、先進事例として紹介されたんだと思います。</p> <p>ただ一般的な図書館の在り方というのも私はとても大事だと思っているので、全ての図書館がそんなふうになってしまう必要はないとは思いました。</p>

発言者	発言要旨
和座長	とてもすてきな事例紹介をありがとうございました。
近藤委員	少し話がそれるかもしれませんが、実際に今、世間で騒がれているコロナ禍の中で、例えば民生委員としてどのような活動をしていくかということ、かなり活動に制限があり、これからもこのような感染症が発生する可能性もあると思うので、今後を考えるとどう活動していけばいいのか、この先のことを考えたほうがいいのかと思っています。
和座長	本当にいつ終わるか分からないですし、ウィズ・コロナですずっと行くかもしれないので、これからの在り方とやり方を考えていかなきゃいけないと思います。ありがとうございます。
小林委員	<p>地域の支え合い活動というのは仕事上、とてもよく考えなければいけないことですが、仕事を離れたときに、自分の地域をどうするかということを考えることすら、余裕が全くなかったのですが、今回、この会議に出席させていただいて、やっぱり意識を変えなきゃいけないんだということが改めて分かり、反省させられました。</p> <p>そういった意識を高め、変えていくような、若い世代に分かってもらえるような活動ですとか、公募などが必要なのかなとは思っていますが、では実際どうしたらいいのだろうとなると、とても難しいかなと思っています。でも、意識が変わったということは自分にとって良かったのかなと思っています。</p>
和座長	恐らくテレワークというか在宅ワークが増えてきているので、若い世代というか現役世代の方が、自分の家だったり地域で過ごす時間が長くなると思うので、そういう方々にどうやって地域に興味を持ってもらったり関わってもらうか。私も方法は全く分からないんですけども、新しい生活様式で地域が変わっていき、地域にいる人が変わってくるんだろうなと思うと、小林委員の「どうすればいいか分からないけれども、意識を変えていきたい」というのは本当にそのとおりだなと思います。
青木委員	<p>私の属しているグループだけじゃなく、日本全国で全体的に言えることですが、高齢化して、いろんな組織が立ちゆかなくなっているのが現状です。</p> <p>多摩区の場合は人口が増えているという点ではいいのかもしれませんが、私の所属している食生活改善推進員連絡協議会というのは、実はコロナの影響で半年も活動をやっていません。年を取っていきますと、半年もやらないと、もう乗り気がしないという気持ちにもなります。一番心配しているのはそういうことで、年を取るのには日本全国で皆同じだけれども、これからは高齢化して、どんどんいろんな組織が弱体化していくと思います。その点をよく考えないと、成り立っていかないと思っています。</p> <p>それともう一点、私が最近テレビを見てみると、ボランティア運動を盛んにやっていますが、例えばこの間も熊本の水害なんかでも結構集まっているんです。</p>

発言者	発言要旨
青木委員	<p>何かあったときに区役所かどこかでもいいんですけれども、そういったところにボランティア窓口というようなことを設けて、どんなことも困ったところは相談できるような組織が必要じゃないかと思います。今のコロナでもそうですが、電話が繋がらないとか、何か問題があっても相談しようがないんです。何を言いたいかという、ボランティア関係を統括する部門が必要じゃないかなというように気がしています。色々なことができるよう、人手を集めて区役所などに詰めている、そういう組織があれば気軽に相談できるような気がします。</p>
和座長	<p>気軽に相談ができる場所をどうつくるかというのは本当に重要な課題だと思いますので、それを区役所内につくるのか、それともいろんな所につくって把握していくのかということもありますので、とても大事な指摘を頂きました。</p>
岡本委員	<p>78 ページに具体的な取組という項目があります。80 ページのコラム 1 に関して、障害や福祉に関する情報の発信という項目ですが、これはどの程度まで具体化した内容で書かれるのかということをお聞きしたいと思います。</p> <p>なぜかと言いますと、私の場合、老人クラブの関係でこういう方のご相談を結構扱っているんです。細かいところまで対応しているわけじゃないですが、われわれの会員さんがだんだん年を取ってきて、体が動かなくなった状態のときに、人によって対応に違いが出てくる場合があります。そのためにこの内容に関して、どの程度までやっていただけるかというのを一つお願いしたいと思います。</p>
事務局（倉）	<p>まずはこちらのコラム 1 がどんな内容かということですが、78 ページの事業 3 を中心に、見た目ではなかなか分からない精神の障害を抱えている方々のことを理解していただくための講演会を取り上げてコラムにしようと考えています。</p> <p>今、岡本委員のお話では、例えば老人クラブの中で会員さんがちょっと困ったとか、どこに相談したらいいか分からないというときに、そういうことが分かるという、というようなお話だったかと思います。その事に関しては 92 ページのコラム「身近な地域の相談窓口」というところで、障害の相談ですとか、介護の相談ですとか、対応する相談窓口について触れようと考えています。</p> <p>また、重点的な取組で、情報発信に力を入れていこうと考えています。老人クラブで困っている事例があれば、そこにターゲットを絞って情報を出していくということもできると考えています。</p> <p>具体的にと言われるとまだはっきりとお答えできませんが、地域包括支援センターとも連携して、情報提供について考えていきたいと思っています。</p>
岡本委員	<p>ここ最近急になんです、そういう方々から相談の回数が増えに来ていて、対応がほとんどできない状態になっているというのが現状です。</p> <p>そのために、私も自分がそういう立場になった場合に、どういうふうに動いて発信したらいいかということを考えながら、今は対応しています。</p> <p>そのやり方が正しいかはわかりませんが、逆の立場になって考え、ただ受けて答えるのではなくて、こちらから発信して答えようというやり方で</p>



発言者	発言要旨
岡本委員	現在活動している状態です。
和座長	<p>今、とても大事なご指摘を頂いたような気がしています。老人クラブの活動の中で今まではそんなに深刻な相談とかではなくて、まあまあ愚痴であったり、そういう世間話程度だったのが、こういうコロナ禍になって深刻な相談があって、それをどこにつなげたり、どう相談すればいいかというのは分からないという状況が、今見えてきたと思います。先ほど、事務局からも地域包括支援センターとの連携が大事だというご指摘がありました。私もそのように思いますので、今後、老人クラブ連合会や個々の老人クラブとかでそういう深刻な相談があったら、地域包括支援センターとどう連携していくかというのはしっかり考えていく必要があるという、本当に大事なご指摘を頂きました。</p>
吉田（稔）委員	<p>多摩商連は商店街をいかに活性化するかというのが一つの目標で、他にもさまざまありますが、今はコロナという言葉を毎日耳にしているとおもいます。私見として一番思うのは、毎日コロナの感染者数の発表をして、アルコール消毒とマスクをしていけば防止できるというのは間違っていると思っています。</p> <p>今も、空中にコロナウイルスがあり、大体1週間は浮遊していると言われていきます。それをわれわれが吸います。体力のある人は入っても何ともないんです。老人にリスクがあると言われていきますが、やはり老人ホームは圧倒的に感染リスクあると思っています。それをいかにして防止していくかが課題であると考えています。</p> <p>これからのコロナ対策はオゾンだと思います。オゾンはコロナにも有効と言われています。さまざまな需要はありますが、市役所でもこういった会議でコロナ対策として、オゾンが2つぐらいあれば、安心ができます。これからはマスクなんて必要ないかもしれません。</p> <p>国からの援助で、皆さんも一時金で10万もらっていると思いますが、それでも商店街にとってはまだまだ死活問題なんです。お客さんがゼロになったり、3割からダウンしているので、それを回復しなかったら、日本経済は伸びません。そこで僕は特にコロナ対策でオゾンを入れて、お客さんに安心して店舗にきてもらいたいと思っています。コロナ対策でオゾンを使う人が増えていけば、マスクが必要なくなるかもしれません。これが1年先、2年先になるかも分かりませんが、日本を安心できる国にしたいなと思っています。まず多摩区からスタートです。区役所からスタートすれば、それから学校も絶対に必要です。会議室だけは安全という感じでやってもらいたいなと、思っています。</p>
和座長	<p>商店街の進め方というのはこれから本当に大変なところもあると思いますし、地域福祉という視点で何ができるのか、いうことを一緒に考えることができたらと思います。先ほど事務局と話をしている中で、一つの例で、スタンプラリーで地域のお店を回っていくというのもいいよねという話もありますが、商店街連合会の中にそういうアイデアとかは出ていないのでしょうか。</p>

発言者	発言要旨
吉田（稔）委員	それは一部でやります。
和座長	引き続きよろしくお願いいたします。
内田委員	<p>先ほどボランティアセンターの話が青木委員のほうからありましたが、社会福祉協議会のほうでボランティアセンターを持っておりまして、まだ知られていないんだな、努力しないとな、と反省いたしました。今後とも頑張っていきます。</p> <p>今後の地域福祉をどう進めるかのところなんですけれども、福祉教育ということで、今は小学校とか中学校に福祉のお勉強の時間というのがあります。車椅子を使って体験したりとか、当事者の方が学校に行って、直接お話を聞いたりするのですが、今はコロナでそれができない状態になっています。ただ事業としてはあるので、どのようにやっていこうかというお話を頂くんですけれども、全市で一部取り組み始めているのが、高齢者施設さんのほうで動画を撮り、それを学校の授業で、教室でテレビに流してもらって。行くことができないから、施設紹介を動画で子どもたちに見てもらおうというやり形に変えています。それから、ボランティア団体さんですとか当事者団体の方にお話をさせていただいているのを、やはり動画に撮って、学校に流すという取り組みをしてみようということでやり始めています。</p> <p>これは今回、NECの方から、「何か社会貢献でお手伝いできることはないですか」というご相談を頂いて、NECの方が動画を撮ってくれたり、セッティングしてくれたりしたのですが、一つ一つ学校へ行ってのセッティングはできないので、セッティングの仕方のマニュアルを作ってくださいたりして、企業さんも一緒になって福祉教育のほうに取り組んでいただくという取り組みを始めました。なので、今後はこれが広がっていくか、またいろんな形に変わるかは乞うご期待ということで、お待ちいただければと思います。</p>
和座長	今回の第6期計画も企業との連携というのが大事になってまいりますので、これをきっかけにいろんな多機関と連携ができればいいなと思います。
木澤委員	皆さんのお話を聞いて非常に参考になりました。本当に民生委員の会議も、町会の会議も行事も、全て中止になっています。これからどうやって活動していこうか、どういう方法で活動すればいいのかということを常に考えているんですけれども、いまだ道が見えていません。だから今は、困っている人だとか障害者のところに物的支援ができれば、しばらくはそういう活動をしていこうと思っています。
和座長	できることをやるという、本当にそれに尽きるかもしれないです。
古谷委員	皆さんからいろいろなご意見が出ましたが、私が今思っているのはコロナです。パラリンピック、オリンピックも中止になって、地域の行事が中止になっておりますが、コロナが解決しない限り、様々な行事もなかなか進んでいかないと思います。他にもありますが、時間がないので、以上でございます。
和座長	ありがとうございます。時間を気遣っていただきました。

発言者	発言要旨
大津委員	<p>思い起こすと今年の2月、区役所のほうで新年の賀詞交換会をしました。それ以降、ありとあらゆる集会、会合はなし。</p> <p>地域で福祉の集いも自粛、学校の運動会も来賓は自粛。もうしょうがないということで、私は地元ではいつも飲み仲間がいます。お茶仲間もいますが6人以上は集めない。5人までならお店も我慢してくれるからということで、月に1回ぐらいメンバーを時々変えながら、5人で酒を飲んでコーヒーを飲んでいます。</p>
和座長	工夫ですね。いいですね。
大澤委員	<p>ここで初めて発言させていただきますが、うれしく思っています。実は今までお話のあったとおり、菅地区の社会福祉協議会でもほとんど事業ができないという状況になっています。中には皆が集まらないでできるような事業が若干ありまして、例えばお年寄りの方にお手紙を差し上げるというのをやっているのですが、これは今120～130人に出しています。たくさんの対象の方がおられると思うのですが、だんだんデータが古くなったこともあり、われわれのできる範囲では、じかに行ってお渡しすることがちょっとできないような状況になっています。</p> <p>もし75歳以上のお年寄りのデータを頂けるのであれば、それ以外には一切使う用意はないんですけども、新しいデータをいただけないでしょうか。多分、まだお手紙が行っていない方が沢山おるんじゃないかというふうに思いますので、もし頂けるようであればデータを頂いて、新しい方のところにもお手紙を出すということをしてしたいと思います。</p> <p>年賀状とか、時候のあいさつとかを2～3回出しており、非常に喜ばれているんですが、だんだん返事が来なくなったり、返ってきたりというのも増えてきておりますので、この辺で見直したいなという、要望が出ております。</p>
和座長	手紙また文通というのは、こういう状況の中で地域福祉の一つのツールとしてまた見直そうという、流れにもなってきています。とてもいいテーマを出していただいたので、ぜひそれを多摩区の地域福祉もやっていけたらいいなと思いますので、よろしくをお願いします。
山口委員	<p>具体的な取り組みというのが62項目あり、この中で「支援します」という言葉が多くありました。「支援します」というのはどういうことなのか、予算的に支援するのか、それとも精神的な支援をするのか、よく分からない。</p> <p>関係団体がいる取組については関係団体の人たちと、何をするのか、よく話し合っただけだいたいと思います。何をやってほしいのか、何を信用するのか、予算があるからこれだけやりますよとか、その辺のことをこれから詰めていただきたいと思います。</p> <p>それと、昔からあった「向こう三軒両隣」という、この意識が今後はもっと必要になると思います。というのは、集まっているいろいろなことができないとか、歩けないということだと、両隣とより仲良くしていく必要があるのではないかと、ということが1点。</p>

発言者	発言要旨
山口委員	<p>また、町会として、「何もできない」ということではなく、町会単位でもっと中の人たちで助け合いをするというようなことが必要だと思います。今後コロナありきの生活がどのように変わるかは分かりませんが、インフルエンザと同じで、いい薬ができれば今の状況も変わると思います。コロナにかかったからちょっと注射を打ったとか、今日は病院に行ったんだね、とかいうふうになるんじゃないかとも思いますが、それまでは少し頑張っていけないといけないというふうに思います。</p> <p>最後に、情報を高齢者によく知らせてほしいと思います。というのは、「こういうのを知っている？」と言ったら「知らない」という返答がよくあります。あれが回ってきたぞとか、これが回ってきたぞと言っても知らないということがあります。高齢者の方はパソコンといっても分からない人もたくさんいるので、ホームページやどこをみれば分かりますと言われても「どうやって見るの？」というようなことがあるので。高齢者に対する情報の発信の仕方というのを、もう少し工夫していただきたいと思います。</p>
和座長	<p>ありがとうございました。</p>
田村委員	<p>今まで私たちは何をやってきたのかということはずっと社協の立場で考えさせられているんですけども、連携、つながり、さらに積極的な交わりをどうするか、助け合いをどうするかというようなことをずっと考えていますが、行事やイベントが中止になっている現状があります。一番簡単な方法は一応中止、できるならやりましょう、ですが、このままでいいのかということで、このことについては本当に知恵を絞って、どうしたらできるかということを考えていこうという、方向性になりました。</p> <p>コロナは十分対策をとるべきなのですが、あまり過剰になる必要もないと思っています。どういう所で起こっているかということ、多く発症している場所・施設の情報も連日伝えられているので、当然そこは気をつけながら、自分達の取組・活動はもっと前向きに考えてやっていこうと思っています。</p> <p>今までやってきたことの原点に立ち返って、さらに強い新しい方法、知恵を絞った方法で、中止じゃなくてさらに積み重ねていこうという方向性がつきました。これに進んでいきたいと思っています。</p>
和座長	<p>ありがとうございます。</p>
岸委員	<p>人が動けば感染は広がります。これは確実なことで、ただ若い人はほとんど風邪みたいな症状の方が大半で、高齢の方は重症化する。だから、多世代交流でつながるといのが今はとても難しい。</p> <p>例えば老人福祉施設にしても面会はみんなできません。家族も会えないようにしています。なぜか。うつったら入所者が亡くなってしまう可能性が高いからです。こういうときはどうすればいいかと、無理しちゃいけないと思います。</p>

発言者	発言要旨
岸委員	<p>いずれはコロナもだんだん落ち着いてきて、今はコロナよりも熱中症で亡くなってしまふ方が多いのが現状です。</p> <p>スウェーデンは対策をせずに集団免疫を取ろうという思いで動いているみたいなんです。考え方の違いかもしれませんが、とても日本じゃそういう考えは無理だと思います。道端で倒れている人を助けようとして、その方がコロナで、自分もうつつってしまったらどうしよう、などの不安でみんな怖がってしまっている。でも、それは仕方がないと思うんです。自分ができる範囲で、マスクをしてある程度距離を取ればうつらないというのは大体分かってきていますよね。政府でも皆さんが会議しているので、こういう会議をしてうつることというのはあまりないと思います。ですから、そういうところから始めていくということしか、今のところはないと思います。多世代交流というのもちょっと怖いので、コロナが落ち着くまではやめておいたほうがいいと思います。</p>
和座長	ありがとうございます。
吉田（輝）委員	<p>私は多摩区町会連合会のほうで出ておまして、参加させていただいています。84 ページの 24 番には新規の取組というような形で、多摩区町会連合会等について書かれております。多摩区としては区民祭という大きなお祭りがありまして、各地区でもいろんなお祭りだとか、そういうものをやっています。各組、自治会に入っていた方が、いかに楽しく町会に入って、いつまでもこの町にいたいと思うような、できればそういうような組織というか、住んでいたいような地域にしたいというような考えはいつも持っております。永くその地域で楽しんでいただけるような町会にしていきたい、このようなことを思っております。</p>
和座長	<p>皆さま方、本当にありがとうございました。伺っていて、無理をせず、じっくりと初心に戻って、今までやってきたことにタイミングを見ながら取り組んでいくというのがいいのかなというのが感じられました。貴重なご意見を頂きました。時間を過ぎてしまいましたが、すいません。議事 4（3）その他ですが、事務局いかがでしょうか。</p>
事務局（瀧課長）	<p>今後の予定について、皆様からご意見頂戴したことを踏まえて（案）を修正し、9月に入りましたら委員の皆様方に送付いたしまして意見を集約して、9月末には素案として確定したいと考えています。</p> <p>12月にパブリックコメント、来年の1月23日土曜日の午後に、区民説明会を行います。第4回目の会議が来年2月3日という予定になっておりますので、また近くなりましたらご案内をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。</p>
和座長	以上をもちまして議事は終了いたします。進行を事務局へお渡しいたします。
事務局（瀧課長）	会議の時間が超過してしまいましたが、和座長議事の進行ありがとうございました。それでは閉会にあたりまして、地域みまもり支援センター所長の加藤から御挨拶申し上げます。

発言者	発言要旨
地域みまもり支援センター所長（加藤）	次第5（閉会） あいさつ